

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100046		
法人名	株式会社ケアマインド		
事業所名	グループホームこころ川西 【評価結果は2ユニット総合評価結果である】		
所在地	兵庫県川西市大和西5丁目24番地2		
自己評価作成日	令和7年12月1日	評価結果市町村受理日	令和8年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2893100046-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2893100046-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和7年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、季節に応じた家族参加型のイベントを実施しており、御家族様が事業所に足を運んで下さる事業所作りを目指しております。元気なスタッフが多く、利用者により良いケアの実践、利用者とのコミュニケーションの時間を圧倒的に増やすように社命として伝え続けている。また、利用者様に1日1回必ず笑って頂けるよう、利用者に話しかけ、コミュニケーション能力を上げるように指導している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節や行事のイベントを大切にされており、利用者家族等も参加し、日常とは異なるレクリエーションと共に、手作りの季節にちなんだ料理やデザートを、利用者も一緒に作る等、季節を楽しめる場面になっています。施設での外食機会や、家族等との外出・外食等も行われており、施設周辺を散歩したり等、戸外で利用者が楽しんだり、交流する機会を大切にされています。地域住民の方々との関係性も良好であり、地域イベントや行事への参加も予定されています。利用者が楽しみながら作って食べる、食事レクリエーションの機会もあり、毎回利用者も楽しみにされています。地域との交流を、再開・拡充する事を意識されており、地域清掃や行事等への参加、地域イベント等への参加等が、毎月行われています。共用空間は、ソファ・テーブル席・畳と各スペースで特徴があり、利用者の気分で過ごしやすい居場所確保に繋がられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念と事業所の方針を事務所に張り出し、見える化させている。 全職員が理念が何か？まずは知ることを大事にしている。	施設の取組や考え方が明示されており、利用者が楽しく安心してすごせる、生活の場を提供できるよう心がけられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域貢献活動の一環として、R7 11月16日 地域の清掃活動に参加した。また民生委員が主体となっている地域住民の憩いの場に、月2回ペースで利用者1名参加させて頂いている。	運営推進会議で、地域の自治会の方や民生委員等との情報共有・情報交換が行われており、それをもとに、地域イベントや行事への参加が行われています。地域の中学校からの職業体験受入も行われています。地域のボランティアによる娯楽提供等もあります。	間口が広がってきた、地域交流活性化の再開・拡充に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員等との情報交換をもとに、地域と一緒に出来る事から取り組んでいく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回 地域住民、包括職員、市の職員、民生委員、家族様を呼び、活動状況を報告している。また地域に対して、開かれた事業所作りを目指しており、R7 10月～起きた事故の詳細を詳しく伝えている。	地域包括支援センター・地域の民生委員・住民・家族等の参加で、対面にて開催されています。参加者からの情報共有・情報交換により、地域行事への参加等に結びつけられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度開催している運営推進会議を通し、地域包括の職員には活動状況の報告を行っている。	運営推進会議を中心に、地域包括支援センターとの情報共有・情報交換が行われています。利用者の生活面に関する、必要に応じた個別行政との協力も行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会による研修を年4回実施している。 内容は職員に共有し、拘束をしないケアの実践を推奨させている。	年4回の拘束にかかる適正化委員会の開催と、研修が行われています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会として、構成員メンバーにて、年2回会議を開いている。スタッフへの教育も兼ね、話し合った内容は月1回の職員会議にて情報共有し、研修も行っている。	年2回の虐待にかかる適正化委員会の開催と、研修が行われています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	R7 10月の運営推進会議にて、館先生による成年後見人制度の研修を行って頂いた。	施設内研修等を通して、利用者の権利擁護を大切に出来るよう心がけられています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分からない事があれば、質問をして下さいとお伝えし、納得をして頂いている。	ニーズを含め、利用目的が合致できているか等の話し合いと確認を行った上で、契約へと繋がられています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様とは、基本的にはLINEでやり取りをしている。状態の報告であったり、連絡事項を行っている。	利用者の思いを大切にし、利用者の意向を基に、食事レクリエーションの内容や展開に繋がられた事例が確認できました。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、職員と対話を重ね、困ったことがないか？聞くようにしている。またR7 11月より気づきの提出を毎月1枚 スタッフに提出してもらい、集めた気づきは、その日に返事をしている。話し合いが必要な場合は、その月の職員会議で話し合うことにしている。	毎月の施設イベントは、職員主体で開催されており、立案から実現までを、職員が担い、利用者の意向も踏まえた楽しめる場となるよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頑張っている職員にはしっかりと評価し、長沼副部長に報告をしている。またR8 1月より本社より表彰制度が実施される予定。		

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法定研修は、基本管理者が出席している。スタッフには、自己研鑽をすすめ、教えられる事は教えてきた。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の情報収集を行い、法人として分析を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談段階で、相手の話を聞き、困りごとに対し、ニーズに合ったケアを提供するよう体制をとっている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御自身で言えない方に関しては、家族からのヒヤリングを行っている。出来る事、出来ない事ははっきりさせている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1週間は、集中的に情報を集めるようにしている。排泄のパターンや、夜間の睡眠状況、食事量や入浴の様子など、生活全般の事、またADLを把握し、安全なケアを提供している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニティの形成は心掛けており、集団の輪が乱れる事がないように、席の配置であったり、各々の能力に見合った方達と交流ができるように配慮している。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態に変化があれば、都度報告をしているが、業務的な報告が多い。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所から発信はしていないが、相手から会いたいとご要望があれば、事業所に足を運んで頂いている。	家族等との外出・外食等が行われています。利用者の思いのある場所への外出支援等も行われています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニティの形成は心掛けており、集団の輪が乱れる事がないように、席の配置であったり、各々の能力に見合った方達と交流ができるように配慮している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた相談対応等ができるよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人及び家族からヒヤリングを行っている。出来る限り、家で暮らしていた状態を崩さないようにはしている。 基本は居室担当者から情報を集めている。	利用者の意向や言葉を担当者から、計画に繋がられるよう共有に努められています。利用者の生活維持に留意されています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に情報収集・ヒヤリングを行っている。		

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夕方の申し送りで、利用者の状態報告と、1日のご様子を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、居室担当者がモニタリングを行っている。そのモニタリングをケアマネージャーに伝え、プランに反映させる様にしている。	毎月の担当職員が把握した状態確認を基に、計画作成担当謝が検討されています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入しているが、実践や結果は記入できていない。介護計画に反映ができるように、気づきは別の用紙に記入している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	R7 10月より毎月、スシローに連れていく外出行事を行っている。また家族様に足を運んで頂けるように、イベントは家族参加型にしている。また、年間行事のイベント強化を行っている(内容の充実化)。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や自治会の行事等への参加を予定している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所の嘱託医へ変更して頂いている。体調不良時は、嘱託医へ連絡を入れ、指示を出してもらっている。	かかりつけ医は、利用者の意向で決定されています。毎週、施設による訪問看護の健康チェックが行われており、協力医療機関と訪問看護の、24時間の電話対応体制もあります。毎週、歯科医師または歯科衛生士の訪問があります。	

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が毎週来所し、健康チェックを行っている。その際、状態の報告を行い、指示を受けている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、相談員やケアマネージャーに1週間に1回ペースで連絡を入れ、状態をお聞きしている。 退院間近になった時、病院に出向いている。	入退院時には、必要に応じた情報共有・情報交換が行えるよう努められています。カンファレンスが開催される場合には、管理者・介護支援専門員が参加し、退院後の支援に結びつけられるよう留意されています。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る前に、家族様、ドクター、ケアマネージャーを交え担当者会議を開いている。家族のご意向に沿った形をとっているが、事業所からは訪問看護の介入を進めるようにしている。	指針が策定されており、利用開始時に説明が行われています。利用者の意向と希望を踏まえた、看取り対応が実施されています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方研修を実践形式で、R7 10月に事業所で実施したが、8割以上の職員はきっと使えない。 繰り返し訓練実施が必要である。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPIに沿って、訓練や検証が行えるよう取り組んでいる。	BCP(事業継続計画)・防災計画マニュアル・非常災害時対応防災マニュアル等に沿った、訓練を意識されています。夜間想定の内容も含まれています。飲料水等の備蓄品が用意されています。法人全体としての備品・消耗品備蓄等も準備されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉使いは、職員会議にて注意喚起させている。	利用者の尊厳を損ねることないよう、言葉使いや接し方に留意されています。必要に応じて、職員会議での振り返り検討が行われています。	

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を中心に、ご本人様の思いをお聞きする努力をしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との関わりを大切に出来るようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向・ペースを踏まえた、服飾管理を心がけている。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き等利用者様が参加している。食事レクリエーションが利用者様の楽しみになっている。	利用者個々のペースを踏まえた、食事介助を心がけられています。行事食・食事レクリエーション等、利用者と共に、楽しみながら調理する機会があります。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業務委託しており、出来上がった食事が毎食届いている為、栄養バランスは良い。嚥下に問題が起これば、都度、一口やミキサー食への変更を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでできる方が1割いるが、その他の利用者に関しては介助が必要であり、スタッフが介助を行うようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前、食後にはトイレ誘導実施を行っている。  どうしたら自立支援に近づけるか？オムツを使用しない介護の実践もビジョンとして描いてはいる。	トイレでの排泄が継続できるよう、職員介助が行われています。言葉がけや誘導等、利用者が羞恥心を抱かないよう努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になれば腸閉塞になり、酷くなればオペになる事もケースがある事をR7 10月の会議にて周知させた。効果は別として、R7 8月 乳酸菌を摂取して頂くなど、個々に応じた取り組みをした時期もあった。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日固定、時間指定での入浴を行っているが、利用者様からの不満は聞かれない。入浴拒否があれば、翌日の利用者を入浴させるなど臨機応変に対応している。	予定入浴が基本ですが、利用者の意向や体調等を踏まえた、柔軟な対応に努められています。簡易型機械浴のを活用し、湯船をまたげない方でも湯船につかれるよう配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠たそうにされている利用者様にはベッド臥床勧め、自ら横になる事を希望された利用者様はベッド臥床させている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬をミスなく服用させるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回 行事を行っている。R7 9月は夏祭り、10月は敬老会、11月は秋祭り、12月はクリスマス会と季節に合わせた行事を企画している。事業所に足を運んで頂けるよう毎月の広報誌で、家族様にイベントがある事を知らせている。		

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎月1回、外食レクとして、2～3人の利用者様を、事業所近くのスシローにお連れしている。  外出に関して、家族様が動けるのであれば、対応をお願いしている。	家族との外出等があります。利用者の意向を踏まえた個別外食も可能な範囲で対応されています。近隣社会資源を活用した、買い物等も行われています。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時、貴重品は事業所で管理できないので、紛失すると責任が負えない事を説明している。お金は家族様から受け取り、事務所で管理している。個人に必要な物を購入する際、そこから支払いをしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に、職員と利用者で作った切り絵(季節物)を壁に張り出している。 刺激になるようなものはなく、夏は27～28度、冬は22～24度を目安に温度管理に気を付けている。	共用空間は、利用者個々が気分に応じて居場所を確保出来る、ソファ、テーブル、畳等のそれぞれの空間が確保されています。季節感を感じられる装飾等に配慮されています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に共有ソファを設置しており、テレビを見ながら隣同士の方と談笑されている場面は毎日見かける。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家族の写真など持ち込んで、限りなく自宅に近い状態にしている。	入居時には、できるだけ使っていた家具等を持ち込み頂けるよう勧められています。趣味の品や器具、仏壇等、利用者それぞれが、思い思いの物を持ち込まれています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有トイレは各階3つあるが、1つは車椅子向けで設計しており、空間は広い。廊下は手すりを設置している。		